

2017年度 第2回日本肺高血圧・肺循環学会 理事会 議事録

日時：2017/6/1（木曜）15時～16時30分

場所：ホテルさっぽろ芸文館 3階「蓬莱の間」

出席理事：巽浩一郎、伊藤正明、江本憲昭、荻野均、桑名正隆、佐藤徹、下川宏明、瀧原圭子、土井庄三郎、中西宣文、西村正治、福田恵一、松原広己、室原豊明、山田秀裕、渡邊裕司

欠席理事：伊藤浩、伊達洋至、谷口博之、吉田俊治

報告事項

1. 佐地勉（東邦大学）理事 御逝去（2017年5月22日）

2. 理事会議事録（2017年4月15日）の確認

3. 第2回日本肺高血圧・肺循環学会 市民公開講座（2017年6月17日）開催予定

息切れを感じているあなたへ 肺高血圧症でもおこるって知っていますか？

於：砂防会館別館「シェーンバッハ・サボア」

4. 定款に休会の項を追記することにした

以下を定款に追加し、定款を変更することにした。

（休会）

会員は、理事会において別に定める休会届に期間および理由を付して提出することにより、休会することができる。

2. 理事長は、正当な理由があると認めるときは休会を承認し、かつ会費を免除することができる。

審議事項

1. 2020年度学術集会会長の選出

福田恵一理事・佐藤徹理事からの推薦状、下川宏明理事からのメールでの推薦状があり、全会一致にて東京医科大学 心臓血管外科主任教授 荻野均理事が選出された。

2. 2018年度理事の選出

理事の選出に関しては、各専門領域理事の先生方の相談にて推薦、理事会にて承認することが前回の理事会にて決定している。

2017年度にて退官の理事は、下記4名のため、その後任選出を行った。

小児科：佐地勉（2017年5月22日 御逝去）

呼吸器内科：谷口博之、西村正治

循環器内科：中西宣文

小児科分野：土井庄三郎理事、中西敏雄先生、佐地勉理事の相談により、

東邦大学 中山智孝先生、大阪大学 小垣滋豊先生の2名が推薦され、承認された。

呼吸器内科分野：西村正治理事、巽浩一郎理事の相談により、

公立陶生病院 近藤康博先生、北海道大学 辻野一三先生の2名が推薦され、承認された。

循環器内科分野：循環器内科分野理事の相談により、

久留米大学循環器内科 福本義弘先生が推薦され、承認された。

(分野の変更に関して、追加審議された)

江本憲昭理事：臨床薬学講座教授であり、基礎分野がより適切と審議され承認された。

3. 2018年度理事長の選出

理事長の選出に関して、2018年度理事の中から理事会にて選出する規定になっている。

福田恵一理事、下川宏明理事などの推薦あり、巽浩一郎理事長が継続して2018年度理事長となることが、全会一致にて選出、承認された。

4. 2018年度評議員の選出

評議員の選出として、地域性が考慮されるべきの議論があった。

室原豊明理事より、名古屋大学大学院医学系研究科 肺高血圧先端治療学寄附講座 教授 近藤隆久先生が推薦され、承認された。

西村正治理事より、札幌医科大学循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座 准教授 橋本暁佳先生が推薦され、承認された。

5. 2018年度八巻賞選考委員の選出（東北大学：下川宏明）

2017年度までの申し合わせ文書の修正が望ましいとされ、「八巻賞」選考に関する申し合わせの修正に関して承認された。

委員長：下川宏明（東北大学、循環器内科）より、下記4名が推薦され、承認された。

委員

渡邊裕司（浜松医科大学、臨床薬理学）2019年度会長

土井庄三郎（東京医科歯科大学、小児科）

伊達洋至（京都大学、呼吸器外科）

伊藤浩（岡山大学、循環器内科）

6. 2018年度学会奨励賞選考委員長および選考委員の選出（三重大学：伊藤正明）

2017年度までの申し合わせ文書の修正が望ましいとされ、「学会奨励賞」選考に関する申し合わせの修正に関して承認された。

瀧原圭子理事より、伊藤正明理事が委員長として推薦され、承認された。

伊藤正明理事より、下記3名が推薦され、承認された。

委員長：伊藤正明（三重大学、循環器内科）

委員

福田恵一（慶応義塾大学、循環器内科）

室原豊明（名古屋大学、循環器内科）

辻野一三（北海道大学、呼吸器内科）

7. 2018 年度学術集会に関して（大阪大学：瀧原圭子）

2018 年度学術集会に関して、6 月 22 日～23 日、大阪 千里ライフ・サイエンスセンターにて開催することが報告された。プログラム委員として下記の先生方が提案され、承認された。

氏 名	専門分野	所属施設	所属
阿部 弘太郎	循環器	九州大学病院	循環器内科
石田 敬一	胸部外科	千葉大学医学部附属病院	心臓血管外科
植田 初江	基礎（病理）	国立循環器病研究センター	病理部
江本 憲昭	循環器	神戸薬科大学	臨床薬学
大郷 剛	循環器	国立循環器病研究センター研究所	心臓血管内科
川口 鎮司	膠原病	東京女子医科大学	膠原病リウマチ痛風 センター
坂尾 誠一郎	呼吸器	千葉大学医学部附属病院	呼吸器内科学
坂田 泰史	循環器	大阪大学大学院医学系研究科	循環器内科学
佐藤 公雄	基礎（循環器）	東北大学大学院医学系研究科	循環器内科学
田村 雄一	循環器	国際医療福祉大学医学部	循環器内科
辻野 一三	呼吸器	北海道大学病院	内科 I
土井 庄三郎	小児科	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科	小児・周産期地域医療 学
中岡 良和	基礎（分子生物学）	国立循環器病研究センター研究所	血管生理学
中村 一文	循環器	岡山大学大学院医歯薬学総合研究所	循環器内科
根来 伸夫	膠原病	大阪市立大学医学部	膠原病内科
平野 勝也	基礎（生理学）	香川大学医学系研究科	自立機能生理学
槇野 茂樹	膠原病	大阪医科大学	リウマチ膠原病内科
三谷 義英	小児科	三重大学大学院医学系研究科	小児科学
南 正人	胸部外科	大阪大学大学院医学系研究科	呼吸器外科学
守尾 嘉晃	呼吸器	順天堂大学大学院医学研究科	呼吸器内科学講座
山田 典一	循環器	三重大学大学院医学系研究科	循環器・腎臓内科学

2018年度 YIA 選考委員の選出（大阪大学：瀧原圭子）

2017年度までの申し合わせ文書の修正が望ましいとされ、「YIA」選考に関する申し合わせの修正に関して承認された。瀧原圭子選考委員長より、下記 YIA 選考委員が推薦され、承認された。

YIA 選考委員長： 瀧原圭子（会長）

YIA 選考委員

委員	氏名	専門分野	所属施設	所属
基礎				
	佐藤 公雄	基礎（循環器）	東北大学大学院医学系研究科	循環器内科学
	坂尾 誠一郎	呼吸器	千葉大学医学部附属病院	呼吸器内科学
	中岡 良和	基礎（分子生物学）	国立循環器病研究センター研究所	血管生理学
	平野 勝也	基礎（生理学）	香川大学医学系研究科	自立機能生理学
臨床				
	川口 鎮司	膠原病	東京女子医科大学	膠原病リウマチ痛風センター
	小垣 滋豊	小児科	大阪大学大学院医学系研究科	情報統合医学小児科学
	守尾 嘉晃	呼吸器	順天堂大学大学院医学研究科	呼吸器内科学講座
	山田 典一	循環器	三重大学大学院医学系研究科	循環器・腎臓内科学

8. 肺高血圧症レジストリー検討委員会（浜松医科大学：渡邊 裕司）

2016年12月21日、2017年4月13日に委員会を開催

学会レジストリーに関して、レジストリー管理者ではなく、登録する側の先生方にメリットのあるレジストリー構築が必要である。レジストリーデータを論文化する時の、Authorshipに関して、あらかじめ規則を作っておく必要がある。

レジストリー構築の基本骨格（システム）に関して、JAPHRおよびJRPHSは、東京大学の品質管理学講座にデータサーバーを置いている。学会レジストリーが統一された場合には、これを使用する。

学会の財政が安定していないが、学会がレジストリーをサポートしていく必要がある。

I群, V群（PAH）

II群（左心不全に伴うPH）

III群（呼吸器疾患に伴うPHないしはPAH）（JRPHS）、

IV群（CTEPH）と4群に分ける。

それぞれの群により、どの項目をレジストリーとして残すか、引き続き検討する。

IV群に関して、日本循環器学会のBPAレジストリーがあるが、それとは目的は同じでなく、CTEPHの全体像を把握するレジストリーを考慮する。PEAのレジストリーも必要ではないかとの意見があった。

入力の手間の問題があるので、必要最小限データの収集を原則とする。

しかし、項目があまりにも少なすぎるとデータ比較が難しくなる。

III群（呼吸器疾患に伴うPHないしはPAH）（JRPHS）は、現状のままで継続する。

小児肺高血圧症のレジストリーを新たに作成する予定とする。土井庄三郎先生が、福島裕之先生（慶応義塾小児科）と連絡をとって頂く。JRPHSの一部として参加することを検討する。

9. 診療ガイドライン COI 委員会（神戸薬科大学 江本憲昭）

日本内科系関連学会から医学系研究の利益相反（COI）に関する共通指針が示されている。診療ガイドライン策定にかかる委員長および委員は、COI 情報を基に関係企業との利害関係の軽重を評価し、関係企業に有利となるようなバイアスリスクが出来る限り発生しないように、社会に対する説明責任が果たせるように対応する。診療ガイドラインの中の Clinical Question に対する推奨作成に関する決定に関しては、COI に配慮して行う。また、ガイドライン作成にかかわるすべての委員の COI 状態は当該のガイドライン・指針等の中で開示されなければならない。

学会として COI を正確に表明した上で、診療ガイドラインを作成することを基本姿勢とすることを確認した。

10. GSK 医学教育事業助成

2016 年度は医学教育事業助成 500 万円があり、肺高血圧症に関する医学教育事業の基盤を作成した。学会として、学会 HP 構築、メール配信システムの構築などを行った。2018 年度 GSK 医学教育事業助成に応募する予定となった。後日、メール審議で申請書を提出する予定とした。